



公益財団法人電気通信普及財団

2026 年 3 月 16 日

電気通信普及財団賞(第 41 回)及び 2025 年度 11 月期における助成援助案件の決定

公益財団法人電気通信普及財団(理事長 巻口 英司)は、2025 年度における「電気通信普及財団賞(第 41 回)」の受賞の著作・論文を決定するとともに、2025 年度研究調査助成及び 2025 年 11 月期シンポジウム・セミナー等開催援助等の助成援助案件を決定しました。

電気通信普及財団賞においては、テレコム人文学・社会科学賞、テレコムシステム技術賞、テレコム学際研究賞など 36 件の著作・論文の授賞を決定しました。

また、2025 年度研究調査助成として、合計で新規 109 件、1 億 9,253 万円と過年度からの継続 65 件、6,357 万円、合計で 174 件、2 億 5,610 万円を決定しました。更に、2025 年 11 月期のシンポジウム・セミナー等開催援助として 12 件、1,018 万円を決定しました。

記

1 第 41 回電気通信普及財団賞

(1) テレコム人文学・社会科学賞	入賞 3 件、奨励賞 2 件
(2) テレコム人文学・社会科学学生賞	入賞 1 件、奨励賞 2 件
(3) テレコムシステム技術賞	特別賞 1 件、入賞 2 件、奨励賞 4 件
(4) テレコムシステム技術学生賞	最優秀賞 1 件、入賞 6 件、奨励賞 3 件
(5) テレコム学際研究賞	入賞 2 件、奨励賞 3 件、特例表彰 1 件
(6) テレコム学際研究学生賞	最優秀賞 1 件、入賞 2 件、奨励賞 2 件

2 2025 年度研究調査助成

(1) 人文学・社会科学分野	33 件	51 百万円
(2) 技術分野	44 件	80 百万円
(3) 学際研究分野	32 件	62 百万円
(4) 過年度採択分	65 件	64 百万円
計	174 件	256 百万円

3 2025 年 11 月期シンポジウム・セミナー等開催援助 12 件 10 百万円

受賞及び助成援助の具体的内容は別紙を参照願います。

以上

本件に関する連絡先

公益財団法人電気通信普及財団

事業部長 梶山正浩

電話:03-3580-3414

<https://www.taf.or.jp/>

第 41 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 100 万円）

「Google SEO のメディア論: 検索エンジン・アルゴリズムの変容を追う」

（書籍発刊：青弓社，2025 年 3 月）

宇田川 敦史 武蔵大学社会学部メディア社会学科 准教授

本書は、博士論文をもとにした単著で、検索アルゴリズムの「ブラックボックス化」や「権力」が、エンドユーザーのニーズやウェブマスターとの相互作用を通じて構成された結果であることを実証的に示した、独創的な研究である。Google など検索エンジンのアルゴリズムが、インターネット初期から 2020 年にかけて、どのように変容してきたのかを、「SEO（検索エンジン最適化）」にまつわる言説の歴史から分析する。複数のアクターによるダイナミズムに焦点を当て、デジタル・プラットフォームの権力構造の複雑性を論じている。インフラ化している検索エンジンの歴史的・社会的な構築のプロセスを、メディア論の視座から学際的に捉えなおす刺激的な試みといえる。完成度の高い研究書であり、SEO/SEM の実務家の方にも有用な一冊である。

入賞（賞金 100 万円）

「現代の諜報・捜査と憲法－自由と安全の日独比較研究」

（書籍発刊：法律文化社，2025 年 4 月）

小西 葉子 関西学院大学総合政策学部 専任講師

本書は、現代国家による情報技術を駆使した情報収集活動に着目し、日独における規制手段の分析を通じて、憲法上の権利の実効的保障のための統制システムの構築を果敢に試みた、優れた研究書である。情報技術の加速度的発展に伴い、犯罪の形態も常に変化を遂げており、捜査や諜報のあり方も、また変化を余儀なくされている。そのような状況を踏まえ、国家による情報収集活動における自由と安全の衡量のあり方についての基本構想を示したことを、高く評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「21 世紀の市場と競争－デジタル経済・プラットフォーム・不完全競争」

（書籍発刊：勁草書房，2024 年 6 月）

安達 貴教 京都大学大学院経営管理研究部・大学院経済学研究科 教授

GAFAM といった巨大企業が存在するデジタル経済において、市場原理からすると、独占企業が出現すれば市場は歪む。しかし、2000 年のマイクロソフト分割訴訟でも同じことがいえるが、Facebook が強すぎるという理由で企業を分割すれば、それがユーザーにとって良いことかという疑問を投げかける。巨大だからこそ、ネットワーク効果でいろいろな人とつながり、便利だという面もある。本書は、「不完全競争市場こそがスタンダードなのだ」という切り口から迫っている。読み物の体裁を備えているが、独自の分析枠組みを果敢に用いながら、独占的なプラットフォームの出現によって、競争政策がラジカルな変容を迫られていることを明らかにした良著である。議論の分かれるところであるが、著者は過剰規制気味な規制当局によって、日本が IT 革命に乗り遅れた要因があったことを示唆している。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Does online communication reduce loneliness among middle-aged and older adults living alone?
Focusing on intergenerational communication」

(Wiley-Blackwell, Geriatrics and Gerontology International, 2025 年 6 月)

村山 陽 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング
研究チーム 研究員（専門副部長）
山崎 幸子 文京学院大学人間学部心理学科 教授
長谷部 雅美 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科 准教授
小林 江里香 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング
研究チーム 研究部長

本論文は、独居の中老年・高齢者を対象に、オンラインコミュニケーションと孤独感および精神的健康との関連を、
交流相手の属性別に精緻に検討した研究である。構造方程式モデリングを用いて同世代・異世代・未面識者を区別し
て分析し、異世代交流を伴うやり取りは孤独感の低下と精神的健康の良好さと関連する一方で、未面識者とのやり取
りは孤独感を高め得ることを示唆している。論文としての完成度は高く、政策的含意も明確である。

奨励賞（賞金 50 万円）

「サイバネティック・アバターの法律問題」

(書籍発刊：弘文堂，2024 年 12 月)

松尾 剛行 桃尾・松尾・難波法律事務所 パートナー弁護士
慶應義塾大学 特任准教授

本書は、「サイバネティック・アバター（CA）と法」の連載を単行本としてまとめたものである。CA に関連する最新の
法的課題について幅広く検討を加えた上で、CA 法においては、現実世界と仮想世界の間で主体や客体のアイデンティ
ティを、どのような場合にどこまで認めるべきかなど、様々な意味におけるアイデンティティの問題が溢れていると
現状分析している。CA がもたらした新しい法的課題についての、さらなる検討が期待される。

第 41 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 50 万円）

「IEEE 802.3 規格の形成過程」

（未発表の論文）

大内 孝子 東京科学大学環境・社会理工学院 修士課程 2 年

本論文は、IEEE 802 委員会における Ethernet（802.3）規格成立の過程を、一次資料と関連文書の精査に基づいて丹念に再構成した研究である。標準化をめぐる技術的選択と組織間の調整を、モジュールやアファクトの視角から捉え、協調と競争が交錯するダイナミズムを明快に描いている。情報通信技術の標準化を社会的プロセスとして捉える独創的視点は、技術史のみならず、現代の情報技術ガバナンスにも示唆を与える完成度の高い論文である。

奨励賞（賞金 30 万円）

「ICT 産業における国際分業と付加価値の分配—国際産業連関表を用いた多国間の相互依存関係に関する実証分析—」

（未発表の論文）

光吉 佑莉加 九州大学経済学府 修士課程 2 年

本論文は、OECD が公表している国際産業連関（2023 年版）を使って、国際分業が進展している ICT 産業の現状等を分析した修士論文で、完成度は高い。問題設定や分析方法などは目新しいものではないが、分析から得られた結果は妥当なものである。分析結果から導かれる政策提言はないが、丁寧な分析がされている点を評価する。今後の研究が期待される論文である。

奨励賞（賞金 30 万円）

「Mobile phones, off-farm income and employment of rural women: Evidence from Bangladesh」

（Asian Development Policy Report Back Ground Paper, 2025 年 5 月）

松浦 正典 政策研究大学院大学政策研究科政策分析プログラム 博士課程 1 年

Abu Hayat Md. Saiful Islam Bangladesh Agricultural University

Salaudinn Tauseef International Food Policy Research Institute

Shu Tian Asian Development Bank

本論文は、バングラデシュ農村部を対象に、女性の携帯電話保有が就業形態や所得に与える影響を家計パネルデータで実証分析した研究である。携帯電話保有を意思決定主体に着目して定義し、内生性に配慮した計量分析を行っている点が評価される。携帯電話の普及が女性の非農業就業や所得機会の拡大と結び付く可能性を示し、情報通信技術がジェンダー格差是正と包摂的成長に果たす役割を具体的に明らかにした、完成度の高い論文である。

第 41 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコムシステム技術賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

特別賞（賞金 200 万円）

「16 x 112 Gbps directly modulated membrane laser array for co-packaged interconnects」

(Optica Publishing Group, Optics Express, 2024 年 7 月)

藤井 拓郎 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 主任研究員
 武田 浩司 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 主任研究員
 前田 圭穂 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 研究主任
 Nikolaos-Panteleimon Diamantopoulos 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所
 准特別研究員
 佐藤 具就 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 主幹研究員
 杉山 弘樹 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 上席ラボスペシャリスト
 土澤 泰 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 主任研究員
 瀬川 徹 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 主幹研究員
 松尾 慎治 日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所 フェロー

今後ますます進展が進む AI データセンターにおけるイントラデータセンターインタコネクトを目指した、16 チャンネルで 112Gbps、2 km を世界で初めて実現した画期的な研究である。この技術は、本グループが長年に渡り実施してきたシリコン基板上の薄膜低しきい値レーザの研究の成果であり、世界に冠たる技術である。世界的にも高く評価され、実用上も、米国のトップ LSI ベンダと協働しており、世界のデータセンターネットワークを変換することが期待できる。日本の IOWN の強力なキャリングビークル技術である。特に優れた論文であることから、テレコムシステム技術賞の特別賞にふさわしいと高く評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「9.6-THz single fibre amplifier O-band coherent DWDM transmission」

(IEEE, IEEE Journal of Lightwave Technology, 2024 年 2 月)

Daniel J. Elson 株式会社 KDDI 総合研究所 光部門 光・量子通信グループ
 コアリサーチャー
 若山 雄太 株式会社 KDDI 総合研究所 光部門 光・量子通信グループ グループリーダー
 Vitaly Mikhailov Lightera laboratories DMTS Scientist
 Jiawei Luo Lightera laboratories R&D Scientist
 吉兼 昇 株式会社 KDDI 総合研究所 光部門 エキスパート
 Daryl Inniss Innis Consultants Founder
 釣谷 剛宏 株式会社 KDDI 総合研究所 光部門 執行役員

光伝送の波長帯の 1 つである O バンドは有力な波長帯であるにもかかわらず、非線形ノイズが大きく、高速なデジタルコヒーレント伝送実現が困難であった。本論文では波長ごとのパワーをアダプティブに制御することにより最適化を行い、世界で初めて O バンドでの高速デジタルコヒーレント通信に成功し、さらに世界トップの 9.6-THz、135 km 伝送実験を行った。本研究は、進みゆく光伝送技術を大きく加速させるものであり、テレコムシステム技術賞にふさわしいと高く評価する。

入賞（賞金 100 万円）

「All-optical MIMO Demultiplexing using silicon-photonics dual-polarization optical unitary processor」

(IEEE/Optica Publishing Group, Journal of Lightwave Technology, 2023 年 6 月)

田之村	亮汰	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	博士課程
唐	睿	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	特任助教
相馬	豪	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	博士課程
石村	昇太	株式会社 KDDI 総合研究所	コアリサーチャー
種村	拓夫	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	准教授
中野	義昭	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	教授

空間モード分割多重光信号に関して、電気を使わない光領域のみの信号処理に成功し、将来の光通信の高度化を大きく前進させるための汎用性の高いユニバーサル光回路の研究に成功した。光技術は伝送技術として大きく成長しており、さらにより高度な光信号処理への発展を省エネの点でも期待されている中で、本研究はその前進へ繋がる貴重な一歩となった。また、大学院生による執筆であるにもかかわらず、トップジャーナルで世界的にも高く評価された産学連携研究の極めて優れた論文であることから、テレコムシステム技術賞にふさわしいと高く評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「DiffuPac: Contextual Mimicry in Adversarial Packets Generation via Diffusion Model」

(The 38th Annual Conference on Neural Information Processing Systems, 2024 年 12 月)

Abdullah Bin Jasni	長岡技術科学大学大学院工学研究科	修士課程 2 年
眞田 亜紀子	長岡技術科学大学大学院工学研究科	准教授
渡部 康平	埼玉大学大学院理工学研究科	准教授

深層学習を利用したネットワーク侵入検知システム (NIDS) を回避する敵対的パケットを生成するための新しい AI モデルを提案している。NIDS の内部情報を知ることなく検知を回避し、かつ、攻撃機能が維持されている敵対的パケットを生成できる点で、従来研究と一線を画している。AI 分野のトップカンファレンスである NeurIPS において採択されており、理論と実践の両面で高く評価されていることから、テレコムシステム技術賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Superconducting wide strip photon detector with high critical current bank structure」

(Optica Quantum, 2023 年 10 月)

藪野	正裕	情報通信研究機構未来 ICT 研究所	神戸フロンティア研究センター 超伝導 ICT 研究室 主任研究員
知名	史博	情報通信研究機構未来 ICT 研究所	神戸フロンティア研究センター 超伝導 ICT 研究室 研究員
寺井	弘高	情報通信研究機構未来 ICT 研究所	神戸フロンティア研究センター 超伝導 ICT 研究室 上席研究員
三木	茂人	情報通信研究機構未来 ICT 研究所	神戸フロンティア研究センター 超伝導 ICT 研究室 室長

本研究の新規性は、単一光子検出器はナノストリップでなければならないという従来の暗黙の前提を覆し、広幅超伝導ストリップという新たな設計概念を提示した点にある。提案構造は偏光無依存で高性能に加えて、量産性と加工容易性にも優れ、通信波長 1550nm において、高効率かつ高時間分解能での光子検出を実証した。光量子コンピュータや量子ネットワーク実装の基盤技術として、テレコムシステム技術賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Agile-X: A Structured-ASIC Created with a Mask-less Lithography System Enabling Low-Cost and Agile Chip Fabrication」

(IEEE, Transactions on Very Large Scale Integration Systems, 2025 年 3 月)

小菅	敦丈	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	講師
角	博文	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	特任研究員
島本	直伸	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	特任研究員
落合	幸徳	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	特任研究員
井上	友里恵	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	学術専門職員
天野	英晴	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	特任研究員
最上	徹	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	特任研究員
三田	吉郎	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	教授
池田	誠	東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター	教授
黒田	忠広	東京大学特別教授室	特別教授

ロボット、IoT といった今後ますます発展するアプリケーションはバッテリーのみで動作することに加え、高度な AI 処理も必要とされる。そのためには CPU や GPU といった汎用的なものではなく、それぞれ単一目的に最適に ASIC を作ることが必要となる。一方で、ASIC は設計コストも高い問題があった。本研究の Agile-X は、CPU/メモリの共通部品と、自由にカスタマイズできるゲートアレーを用いたプラットフォームであり、マスクを必要としないリソグラフィで、約 1 万分の 1 のコストにより、通常 20 日必要な開発を 30 分で実現した画期的なプラットフォームである。現在、日本が最も力を入れている半導体技術の中でもオリジナリティの優れた研究成果であり、テレコムシステム技術賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Polarization-independent isotropic metasurface with high refractive index, low reflectance, and high transmittance in the 0.3–THz band」

(De Gruyter, Nanophotonics, 2023 年 5 月)

佐藤 建都 東京農工大学工学府電気電子工学専攻 修士

鈴木 健仁 東京農工大学大学院工学研究院先端電気電子部門 准教授

テラヘルツ電磁波領域(0.3THz)において、無偏光・超高屈折率・低反射率という優れた特性を有する人工構造材料のメタサーフェスを、シート状の平面構造で実現している。現在、6G 通信などへの適用を目指し、同メタサーフェスを用いたメタレンズアンテナと光源の融合に向けた研究を積極的に進めており、企業への技術移転などを含め、社会実装に向けて余念がない。よって、テレコムシステム技術賞にふさわしいと評価する。

第 41 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコムシステム技術学生賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

最優秀賞（賞金 80 万円）

「Payload Queueing for Optimizing Complex Header Processing in Programmable Switches」

(IEEE, IEEE Transactions on Networking, 2025 年 6 月)

吉仲 佑太郎 大阪大学大学院情報科学研究科情報ネットワーク学専攻
博士後期課程 2 年

共著者 小泉 佑揮、武政 淳二、長谷川 亨

本研究は、プログラマブルスイッチにおけるパケットのループバック処理というボトルネックを、パケット分割とヘッダ優先処理、ペイロード待機、再結合からなる新しいスイッチ内処理アーキテクチャで改善した。待ち行列理論による解析と実機実装により、有効性と Tbps 級で従来手法に比べて 2 倍以上の高速化を示し、In-Network Computing の基盤技術として高い価値を有する。受賞者は研究全体を主導的に遂行し、テレコムシステム技術学生賞の最優秀賞に相応しいと高く評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「ZEN-MAC: Zero Excess Node MAC for Multihop Sensor Networks With Energy Harvesting」

(IEEE, IEEE Internet of Things Journal, Volume: 12 Issue: 14, 2025 年 5 月)

川口 達広 電気通信大学情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻
博士後期課程 3 年

共著者 石橋 功至

環境発電を活用したマルチホップ無線センサネットワークにおいて、各無線ノードのエネルギー効率を向上する MAC プロトコルを提案している。多段階ビーコンを用いた低電力リスニングと負荷制御機能により、各ノードが自律分散的に消費電力を制御することを可能としている。受賞者は 2017 年度から関連研究を推進し、論文の主要なアイデアと成果の大部分に貢献しており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと高く評価する。

※MAC: Medium Access Control

入賞（賞金 50 万円）

「Receiver Maximum Eigenmode Beamforming-Based Null-Space Expansion for Multi-User Massive MIMO in Time-Varying Channel」

(IEEE, IEEE Transactions on Vehicular Technology, 2025 年 2 月)

佐々木 友基 東京理科大学工学研究科電気工学専攻 修士課程 2 年

共著者 荒井 甲、中里 仁、丸田 一輝

大規模 MIMO システムにおけるヌル空間拡張の性能を改善すべく、特異値分解に基づく最大固有モードビームフォーミングをユーザ端末に適用した、空間多重伝送方式を提案している。シミュレーションにより、端末が高速で移動する環境におけるユーザ間干渉の抑圧を確認している。受賞者は理論・実装・評価を自ら実施しており、多数の論文発表に加えて Award を複数回受賞していることから、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと高く評価する。

※MIMO:Multiple Input Multiple Output

入賞（賞金 50 万円）

「Dual-laser Brillouin optical correlation-domain reflectometry」

(IOP Publishing, Journal of Physics: Photonics, 2025 年 4 月)

朱 光韜 横浜国立大学大学院工学研究院 博士課程 2 年

共著者 清住 空樹、高橋 央、古敷谷 優介、水野 洋輔

ブリルアン光相関領域反射計 (BOCDR) の新しい構成 (デュアルレーザ BOCDR) を提案し、理論的解析にあわせて実験によりその有効性を確認した。その結果、非常に安定し、低価格で、位相掃引に必要な遅延線等を排除し、小型化が可能な技術であることを実証している。本研究は学生賞の領域を超えたレベルの高い研究である。実用上も有効な産学連携研究の成果であることから、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと高く評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「DSE-Based Hardware Trojan Attack for Neural Network Accelerators on FPGAs」

(IEEE, IEEE Transactions on Neural Networks and Learning Systems, 2025 年 7 月)

Chao Guo 早稲田大学大学院基幹理工学研究科 博士後期課程 5 年

共著者 柳澤 政生、史 又華

オープンソースの設計空間探索 (DSE) を用いた AI アクセラレータ自動生成に内在するセキュリティ脆弱性に着目し、新たな脅威モデルの提案と複数のニューラルネットワークを用いた実験により、ハードウェア生成プロセス自体が攻撃対象となり得ることを初めて体系的に示した。AI ハードウェアの信頼性確保に重要な基盤研究である。受賞者は研究全体を主導的に遂行しており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと高く評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「MI-Poser: Human Body Pose Tracking using Magnetic and Inertial Sensor Fusion with Metal Interference Mitigation」

(ACM, Proceedings of the ACM on Interactive, Mobile, Wearable and Ubiquitous Technologies, 2023 年 9 月)

荒川 陸 Carnegie Mellon University, Ph.D Student

共著者 Bing Zhou、Gurunandan Krishnan、Mayank Goel、Shree K. Nayar

スマートグラスと両手首に装着した EMF センシングデバイス間のデータ伝達により、上半身の関節の位置と姿勢を推定するシステムを開発している。電波干渉に対しては、IMU センサを組み合わせることによって、検出と補正を可能としている。受賞者はアイデア創出、アルゴリズム設計、システム実装、評価実験まで一貫して遂行し、現実環境における高い性能を実証しており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと高く評価する。なお、第 40 回テレコム学際研究学生賞（奨励賞）を受賞しているが、内容を異にする技術分野の優れた研究である点を踏まえて、テレコムシステム技術学生賞を授与することとした。

※EMF: Electromagnetic Field, IMU: Inertial Measurement Unit

入賞（賞金 50 万円）

「TKG-DM: Training-free Chroma Key Content Generation Diffusion Model」

(IEEE/CVF, The IEEE/CVF Conference on Computer Vision and Pattern Recognition 2025 (CVPR2025), 2025 年 6 月)

守田 竜梧 法政大学大学院理工学研究科応用情報工学専攻 修士課程 2 年

共著者 Stanislav Frolov、Brian Bernhard Moser、白川 貴裕、渡邊 洸、Andreas Dengel、周 金佳

拡散モデルに必須と考えられてきた学習・ファインチューニングを用いず、初期ノイズの統計的特性を制御することで、前景と背景を独立に生成可能な新しい拡散モデル「TKG-DM」を提案している。理論的洞察に基づく簡潔な設計と実装容易性を備え、かつ大規模学習や追加編集が不要である。実証実験により既存手法と同等以上の生成品質を達成している。課題設定から主体的に遂行しており、修士課程学生として極めて完成度が高く、テレコムシステム技術学生賞にふさわしい成果である。

奨励賞（賞金 30 万円）

「EXIT Chart Analysis of Expectation Propagation-Based Iterative Detection and Decoding」

(IEEE, IEEE Open Journal of the Communications Society, 2025 年 6 月)

小林 楓賀 大阪大学大学院工学研究科 博士前期課程 2 年

共著者 高橋 拓海、衣斐 伸介、落合 秀樹

MIMO 信号検出手法の一つである IDD 方式の収束特性の解析を、EXIT 解析を拡張することで確立し、期待値伝搬法に基づく IDD 方式の方がターボ等化による方式よりも優れたビット誤り率特性を達成することを、シミュレーションと解析によって明らかにしている。受賞者は問題提起、定式化、シミュレーション、論文執筆の全ての過程を主体的に担当しており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

※IDD: Iterative Detection and Decoding

奨励賞（賞金 30 万円）

「Hydrogen passivation effects on polycrystalline germanium thin films」

(Springer Nature, NPG Asia Materials, 2025 年 6 月)

野沢 公暉 筑波大学院数理物質科学研究群応用理工学学位プログラム
博士後期課程 1 年

共著者 居倉 功汰、溝口 拓士、齋藤 徳之、吉澤 徳子、末益 崇、都甲 薫

品質を向上させた多結晶 Ge 薄膜に対して、水素添加の後に低温熱処理を行うことで正孔密度を低減できることを世界で初めて実証し、Ge を用いた高移動度の半導体開発への道を拓いた。低温熱処理を発案し、その特性向上の機構解明に主体的に貢献した点を高く評価する。受賞者のアカデミック・アクティビティは極めて高く、論文発表以外に助成金の獲得や 2 件の特許出願もしており、今後の活躍が大いに期待され、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 30 万円）

「New Efficient Method to Compute the Joint Reliability Importance of Order k 」

(IEEE, IEEE Access, 2024 年 9 月)

相馬 代知 東京都市大学総合理工学研究科情報専攻 修士課程 2 年

共著者 林 正博

信頼性重要度解析における k 次結合信頼性重要度の計算には、これまで k の指数関数オーダーの計算量が必要であった。本論文は、 k 階偏微分問題を k 階常微分問題に変換することで、 k 次結合信頼性重要度を k の多項式オーダーの計算量で高速に計算する手法を初めて提案した。受賞者は計算アルゴリズムを自ら提案し、計算量解析、数値実験、ならびに論文執筆を主体的に担当しており、テレコムシステム技術学生賞にふさわしいと評価する。

第 41 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム学際研究賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

入賞（賞金 100 万円）

「**InteLLA: Intelligent Language Learning Assistant for Assessing Language Proficiency Through Interviews and Roleplays**」

(25th Annual Meeting of the Special Interest Group on Discourse and Dialogue (SIGDIAL), Proceedings of the 25th Annual Meeting of the Special Interest Group on Discourse and Dialogue (SIGDIAL), 2024 年 9 月)

佐伯	真於	早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工学専攻 博士後期課程
高津	弘明	株式会社エキュメノポリス リサーチ・サイエンティスト
倉田	楓真	早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工学専攻 修士課程
鈴木	駿吾	早稲田大学 GCS 研究機構知覚情報システム研究所 次席研究員
江口	政貴	早稲田大学 GCS 研究機構知覚情報システム研究所 次席研究員
松浦	瑠希	早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工学専攻 修士課程
瀧澤	嵩太朗	早稲田大学大学院教育学研究科教科教育学専攻 博士後期課程
吉川	禎洋	株式会社エキュメノポリス リサーチ・エンジニア
松山	洋一	株式会社エキュメノポリス 代表取締役

英語スピーキング能力判定のためのマルチモーダル対話システムを開発している。システム主導型インタビューと混合主導権型ロールプレイを通して収集した発話データから、表現の幅、正確さ、流暢さ、やりとり、一貫性、音韻の 6 細目を CEFR に準拠して推定している。日本全国の初等から大学までの教育機関において多数の学生に利用されている実績を踏まえ、テレコム学際研究賞にふさわしいと高く評価する。

※CEFR:Common European Framework of Reference for Languages

入賞（賞金 100 万円）

「**Feedback from an avatar facilitates risk-taking by modulating the amygdala response to feedback uncertainty**」

(Public Library of Science (PLOS), PLOS Biology, 2025 年 4 月)

田中	敏子	情報通信研究機構未来 ICT 研究所脳情報通信融合研究センター 主任研究員
春野	雅彦	情報通信研究機構未来 ICT 研究所脳情報通信融合研究センター 室長

対峙相手が人間かアバターかによってリスク選好行動が変化するという仮説を、フィードバック不確実性という単一の潜在変数に還元し、行動および脳活動の双方から検証した点に特徴がある。特に、アバターの顔表情がリスク選択を促進し、その効果が扁桃体の不確実性応答に基づくことを示した点は、計算神経科学的に意義深く、テレコム学際研究賞にふさわしい研究である。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Reducing sexual predation and victimization through warnings and awareness among high-risk users」

(Springer Nature, Journal of Computational Social Science, 2025 年 6 月)

高野 雅典 株式会社サイバーエージェント学際的情報科学センター リサーチャー
西口 真央 東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻 研究員
鳥海 不二夫 東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻 教授

若年利用者の多い大規模 SNS を対象に、機械学習とランダム化比較試験を組み合わせて長期の介入を行い、持続的に性的被害や加害を抑制する実証的エビデンスを提示している。効果は部分的な支持にとどまり、介入手法の一層の改善を示唆するものだが、プラットフォーム運営主体と研究者が協働し、ユーザ負担および運営者のコストを含めた実現可能性を探っており、その社会的意義からも、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「EarHover: Mid-Air Gesture Recognition for Hearables Using Sound Leakage Signals」

(UIST' 24: Proceedings of the 37th Annual ACM Symposium on User Interface Software and Technology, 2024 年 10 月)

鈴木 俊汰 慶應義塾大学大学院理工学研究科 修士 1 年
雨坂 宇宙 慶應義塾大学理工学部 研究員
渡邊 拓貴 北海道大学情報科学研究科 助教
志築 文太郎 筑波大学システム情報系 教授
杉浦 裕太 慶應義塾大学理工学部情報工学科 准教授

従来ノイズとして扱われてきたヒアラブルデバイスの音漏れを能動的な入力信号源として利用するという独創的な発想に基づくものである。中でもジェスチャ分類への適用は同氏らが初めて行い、その完成度が高く評価できる。HCI 分野のトップ国際会議の一つである UIST での Best Paper Award を受賞している点も国際的な評価の高さを示しており、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 50 万円）

「Perceiving Synchrony: Determining Thermal-Tactile Simultaneity Windows」

(IEEE, IEEE Transactions on Haptics, 2024 年 9 月)

城代 拓哉 九州大学大学院芸術工学研究所 テクニカルスタッフ
Lynette A. Jones Massachusetts Institute of Technology
Dept. of Mechanical Engineering, Senior Research Scientist
寺尾 将彦 山口大学時間学研究所 講師
Ho, Hsin-Ni 九州大学大学院芸術工学研究所 准教授

温度感覚と触覚の主観的同時性を明らかにすべく、親指の付け根に+5℃の温度刺激とパルス触覚刺激を様々な時間差で与えるシステムを構築し、13 名の試験者により刺激タイミングの影響を定量的に評価している。温度刺激が触覚刺激より約 0.5 秒先行したときに最も同時に感じられるなどの結果を得ている。得られた知見は、感覚情報の伝送などの研究の発展に資することから、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。

特例表彰（賞金 30 万円）

「Learning with the Minimum Description Length Principle」

（書籍発刊：Springer, 2023 年 9 月）

山西 健司 東京大学情報理工学系研究科数理情報学専攻 教授

本書は、MDL 原理に基づく機械学習理論を統計的モデル選択・推定の観点から、数理的に厳密かつ、体系的に解説した完成度の高い著作である。定義から応用まで明確に構成され、計算困難性や近似、実応用に関する洞察は教科書の域を超える。MDL 研究を牽引してきた著者自身による研究の総括として、研究者の入門書としても国際的評価が高く、特例表彰に値する。

第 41 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム学際研究学生賞～

＜順不同、敬称略＞

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

最優秀賞（賞金 80 万円）

「CausalMob: Causal Human Mobility Prediction with LLMs-derived Human Intentions toward Public Events」

(Association for Computing Machinery, Proceedings of the 31st ACM SIGKDD Conference on Knowledge Discovery and Data Mining, KDD 2025, 2025 年 7 月)

楊 曉杰 東京大学大学院学際情報学府 博士後期課程 3 年

共著者 葛 杭麗、Wang Jiawei、Fan Zipei、姜 仁河、柴崎 亮介、越塚 登

公共イベントが人流に与える因果的影響を解析・予測する手法「CausalMob」を提案しており、着眼点は新規的であり、独創性も高い。また社会科学・情報科学を横断する学際性の高い研究である。ニュース記事を用いた大規模実証実験により有効性を示している。イベントの種類等による精度の違いといった課題はあるものの、社会的意義、論文の完成度と申請者が中心となって構築・実装・検証を行った点も高く評価されることから、テレコム学際研究学生賞の最優秀賞に相応しいと高く評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Transition ability to safe states reduces fear responses to height」

(National Academy of Sciences,
Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS), 2025 年 5 月)

藤野 美沙子 大阪大学大学院生命機能研究科 5 年一貫制博士課程後期 3 年
国立研究開発法人情報通信研究機構 協力研究員

共著者 春野 雅彦

VR を用いた高所環境において、被験者が自身で安全領域に移動可能か否かの条件を操作し、生理指標および主観的恐怖評価という複数の指標を用いて比較している。高所恐怖について、VR を活用した単なる暴露療法を超えて、自身の行動で状況をコントロール可能であることで恐怖を低減可能かを検証している点は情動制御研究に新たな視座を与えるものであり、テレコム学際研究学生賞にふさわしいと高く評価する。

入賞（賞金 50 万円）

「Multiple Self-Avatar Effect: Effects of Using Diverse Self-Avatars on Memory Acquisition and Retention of Sign-Language Gestures」

(IEEE, IEEE Transactions on Visualization and Computer Graphics, 2024 年 7 月)

瑞穂 嵩人 東京大学大学院情報理工学系研究科 博士課程 3 年

共著者 竹中 舜、鳴海 拓志、葛岡 英明

VR 空間における自己アバター体験が記憶形成・定着に及ぼす影響を検討し、多重文脈効果を「環境」ではなく、「アバターの变化」として導入した点に独自性がある。セルフアバター外見を変化させた条件が、学習速度や長期記憶に影響することを示した。候補者は着想から実験、解析、論文執筆、国際発表まで主体的に担っており、学生の研究貢献も顕著である。テレコム学際研究学生賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 30 万円）

「Beyond scores: A modular RAG-based system for automatic short answer scoring with feedback」

(IEEE, IEEE Access, 2024 年 11 月)

Menna Fateen 九州大学大学院システム情報科学府知能情報工学専攻 博士後期課程 3 年

共著者 Bo Wang、峯 恒憲

大規模言語モデル (LLM) を利用した短答式自動採点システムを開発している。LLM に与えるプロンプトを検索拡張生成 (RAG) に基づき効率よく高精度で探し出し、タスクに特化しないプロンプトを生成する仕組みなどを考案している。受賞者は提案システムのアイデア、設計、実装、評価、論文の執筆まで責任をもって実施した。また、学会発表にも積極的である点を踏まえ、テレコム学際研究学生賞にふさわしいと評価する。

奨励賞（賞金 30 万円）

「VR 百人一首かるたの札取り動作の数理モデル解析と 2 種のルール下におけるゲームスキル差の調整への応用」

(一般社団法人日本ソフトウェア科学会, コンピュータソフトウェア, 2025 年 1 月)

丸山 礼華 津田塾大学理学研究科 修士 2 年

共著者 栗原 一貴、山中 祥太

百人一首を対象に VR 技術を用いてゲームスキル差を調整するという着想が極めて独創的であり、Fitts の法則を適用可能な抽象レベルまで理論化した点は修士 1 年生（執筆時）として際立っている。研究の立案から論文執筆までの主導、査読付き論文 10 件、多数の受賞、未踏スーパークリエイターとしての実績から学生の寄与は極めて大きい。研究者としての自律性と将来性は顕著であり、テレコム学際研究学生賞にふさわしい。博士課程での発展を強く期待したい。

2025年度研究調査助成 人文学・社会科学分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
創価大学 経営学部 准教授 岡田 勇	情報通信におけるAI共生の実装可能な手順の 提案:オンライン実験による検討	3,000
名古屋大学 総合保健体育科学センター 准教授 古橋 忠晃	日仏のひきこもりに対するITを活用したヴァー チャルな社会的な居場所の構築	2,335
慶應義塾大学 経済学部 教授 亀井 憲樹	匿名なユーザー・コミュニティにおける第三者 罰に基づく規範遂行:実験室実験からの一考察	2,700
中央大学 商学部 教授 李 炅泰	デジタル環境における自己イメージ不一致の尺 度開発と心理的健康への応用	1,000
早稲田大学 大学院法学研究科法曹養成専攻 教授 久保田 隆	偽情報の拡散を巡るSNSとAIプロファイリングの 法的課題	500
山形大学 地域教育文化学部 講師 浦野 由平	AIとの共生時代の感情制御:拡張された内的対 話としての再定義	906
日本女子大学 文学部英文学科 准教授 堀内 ふみ野	オンラインデータによるリアルタイム追跡を活用 した新規構文発達プロセスの解明	730
立命館大学 経営学部 教授 堀井 悟志	全社的データ連携を通じた日本企業の研究開発 の変化に関する経験的研究	750

2025年度研究調査助成 人文学・社会科学分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
立命館大学 法学部 特別任用教授 出口 雅久	「デジタル司法における裁判所の説明責任とAIによる判決データベースの利活用」	1,000
国立保健医療科学院 疫学・統計研究部 上席主任研究官 森岡 典子	病院における熟練看護知を学習するAI認知症ケア支援の開発	1,636
山形大学 人文社会科学部 准教授 大杉 尚之	オンライン心理学実験とAI使用による情報探索時の見落とし防止策の提案	1,000
東京大学医学部附属病院 企画情報運営部 助教 関 倫久	診療ガイドラインを用いた大規模言語モデルの臨床意思決定支援性能の網羅的調査	3,000
岡山大学 学術研究院教育学域 教授 三沢 良	DX時代のバーチャリティ・パラドックスの実態と従業員アウトカムへの影響過程の解明	1,051
立命館大学 産業社会学部 准教授 谷原 つかさ	政治系動画は新たな分断につながるか：若年層における既存メディア不信等の縦断検証	1,800
筑波大学 人間系心理学域 助教 北原 祐理	AI相談における多面的な心理理解を促す応答の抽出と有効性の検証	1,000
大阪大学大学院 人間科学研究科 講師 齋藤 僚介	アンコンシャスバイアス研修は差別を減らすのか？：IATの効果に着目して	1,112

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
東北大学 大学院法学研究科 准教授 金子 智樹	日本で政策争点投票は可能か:有権者の政治認識とボートマッチの研究	2,100
明治大学 商学部 教授 太田 壘	生成AIエージェントによるレビュー照合型推薦と経済厚生	2,000
大阪工業大学 知的財産学部 准教授 吉田 悦子	AI開発・運用過程における中間成果物の法的保護に関する比較法研究-欧州との比較	800
長崎総合科学大学 総合情報学部 准教授 山路 学	画像真正性証明による災害情報信頼性の構築と行動促進に関する研究	1,150
長崎大学 経済学部 准教授 大角 道子	会議構造と情報デザインによる多様なコミュニティ間の合意形成支援	1,100
奈良女子大学 文学部人間科学科 特任助教 藤村 達也	ラジオ放送が形成する学習文化のメディア論的研究—「大学受験ラジオ講座」を対象に—	840
同志社大学 商学部 教授 田口 聡志	AIペルソナ実験と人実験のダイナミズム:信頼理解の実験社会科学	2,300
早稲田大学 法学学術院 教授 上野 達弘	生成AI時代における人間の声・肖像等の保護に関する国際比較と新たな立法提案(延長)	2,000
関西大学 ソシオネットワーク戦略研究機構 特任助教 池田 利基	AIからの共感的応答は人間からの共感的応答よりも情動緩和をもたらすか:ERPによる検証	2,760

2025年度研究調査助成 人文学・社会科学分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
一橋大学 社会科学高等研究院 特任講師 鄭 コイン	データ・ラベリング労働の不可視化とデータガバナンス: 中国の事例分析から	1,400
東京大学大学院 教育学研究科 学生(博士課程) 渡邊 俊介	読み困難児における音声読み上げ機能の有効な利用を媒介する認知能力と使用方略の検討	812
慶應義塾大学 総合政策学部 教授 渡辺 将人	ソーシャルメディアが選挙デモクラシーに及ぼす影響: アメリカと台湾の比較研究	2,500
千葉大学 予防医学センター 准教授 中込 敦士	生成AI依存の背景要因と心理・社会的リスクの解明	2,200
中央大学大学院 文学研究科心理学専攻 博士後期課程1年 塚田 花音	「高齢者がデジタルを使う時代」における新たな社会課題の調査と介入	1,500
宇都宮大学 地域創生推進機構イノベーション支援センター 准教授 木村 行雄	DX時代の情報通信と大学発ベンチャー: アジア都市における情報系SUの比較研究	900
千葉大学大学院 医学研究院 認知行動生理学 博士2年 三好 未来	学校での辛い体験をもつ不登校の子どもに対するオンライン支援プログラムの実証研究	700
筑波大学 人文社会系 准教授 宮川 創	消滅の危機に瀕する諸言語のための人工知能を活用したツールの開発	2,500

人文学・社会科学分野 33件 51,082千円

2025年度研究調査助成 技術分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
東京都立大学 システムデザイン学部 情報科学科 教授 朝香 卓也	LEO衛星通信におけるMQTTアプリケーション層 制御の設計と実装	1,500
静岡大学 電子工学研究所 教授 小野 篤史	次世代情報通信インフラに向けた超高速・高感 度光受信器の開発	2,800
大阪公立大学 大学院情報学研究科 教授 戸出 英樹	目標往復伝搬遅延を厳密かつ公平に提供するト ランSPORTプロトコルの研究	2,000
大阪大学大学院 基礎工学研究科システム創成専攻 特任講師(常勤) 三宅 章太	複数アクチュエータ協調制御の容易実装化を可 能とするエンドユーザ開発基盤の構築	1,600
山口大学 大学院創成科学研究科 准教授 井田 悠太	時間窓平均とサブキャリア配置最適化を用いた 位相雑音補償IM-OFDMの研究	2,000
東京大学 情報基盤センター 准教授 近藤 大嗣	DNSキャッシュポイズニング対抗技術の実態と有 効性に関する包括的調査	1,000
東京科学大学 工学院・電気電子系 准教授 大見 俊一郎	強誘電体ゲートトランジスタを用いた適応学習デ バイスの研究	3,000
山梨大学 大学院総合研究部工学域機械工学 系 准教授 大原 伸介	照明変動にロバストな色不変量に基づくロボットの ビジュアルサーボ制御	2,000

2025年度研究調査助成 技術分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
名古屋工業大学 大学院工学研究科 工学専攻 電気 電子プログラム 助教 田中 裕士	アナログ・デジタル併用のミリ波・テラヘルツ波 システム向け信号処理手法開発	900
横浜国立大学 大学院工学研究院 知的構造の創生 部門 准教授 佐野 誠	反射・透過型平面アンテナを用いた新たなビー ム走査手法の確立	2,000
三重大学 大学院工学研究科 情報工学専攻 准教授 森本 尚之	赤外線画像の動的領域抽出とミリ波センサ融合 による起床動作予測の高精度化	1,070
青山学院大学 理工学部情報テクノロジー学科 助手 山崎 禎晃	生成AIを活用した自動応答と対話指導支援を統 合する教育支援システムに関する調査	1,300
筑波大学 システム情報系 助教 高橋 大成	有効期限設定可能なデジタル資格情報の提案	1,722
電気通信大学 情報理工学研究科 助教 WANG GANGGUI	高速車両ネットワーク環境における適応型通信 基盤の構築	1,666
九州大学 大学院システム情報科学研究院 准教授 吉岡 宏晃	印刷ウェッジ共振器の光モード空間制御による 単一素子多波長多重化技術の実証	3,000
早稲田大学 理工学術院・先進理工学部・応用物 理学科 教授 北 智洋	機械学習を用いたインライン光検出器装荷ヘテ ロジニアス波長可変レーザの高精度制御	3,000
京都大学 地球環境学堂/人間・環境学研究科 (兼) 助教 許 健	電子トラップ制御による多次元光情報ストレージ 用新規発光材料の設計	2,000

2025年度研究調査助成 技術分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
福井大学 学術研究院工学系部門 情報・メディア工学講座 助教 加藤 堯彦	超多数のIoT端末を効率的に収容する新たなモバイルネットワークアーキテクチャ	2,200
東京科学大学 工学院 助教 久米 啓太	高精度な信号復元技術を実現するためのデータ駆動型制約付き最適化アルゴリズムの開発	1,495
福岡大学 工学部 電子情報工学科 講師 中村 遼	グラフバンディットに対する高効率な解法の創出と UAV 経路制御への応用	1,300
東京大学 工学系研究科・電気系工学専攻 博士後期課程 堀内 皓斗	スピンとイオンの融合による次世代ニューロモルフィック素子の創出	2,000
日本大学 工学部・電気電子工学科 助教 田村 成	IoT通信の物理層セキュリティを強化する指向性変調アンテナの理論構築と実証	2,000
同志社大学 理工学部・電子工学科 教授 衣斐 信介	位置推定におけるカルマンネットのモデルベース深層学習の研究	1,900
千葉大学 大学院情報学研究院 准教授 NGUYEN KIEN	トポロジー・遅延考慮型ピア選択による安全かつ高速なIoTブロックチェーン	700
大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学 博士課程後期 今井 大達	多モーダル手術データに基づく暗黙知のモデル化とフィジカルAI手術ロボットのリアルタイム制御技術	2,000
東海大学 情報通信学部 情報通信学科 准教授 山崎 悟史	連合深層距離学習と省電力広域ネットワークを併用するエッジAIアーキテクチャの実証	2,000

2025年度研究調査助成 技術分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
宮崎大学 工学教育研究部・情報通信プログラム 教授 Thi Thi Zin	人物骨格と環境幾何の3D統合による配置フリー 行動推定システムの開発	2,000
芝浦工業大学 工学部 情報・通信工学課程 情報通 信コース 准教授 菅 宣理	深層ブラインド推定によるPilot-Freeな超多素子 システムの実現	2,952
室蘭工業大学 大学院工学研究科 しくみ解明系領域 助教 西原 慧	工学設計において少ない評価回数で実行可能 解を得るための制約条件の分割統治法の構築	1,000
近畿大学 理工学部 機械工学科 准教授 原口 大輔	柔軟ロボットの精密遠隔操作を実現するアドミッ タンス型ロバストバイラテラル制御	3,000
北海道大学 大学院情報科学研究院情報理工学 部門 准教授 中村 将成	安価な可搬ロボット活用のための屋内位置情報 基盤	1,548
東京科学大学 工学院・情報通信系・情報通信コース 博士後期課程1年 成清 壮太	非常時の社会的混乱の早期収束のための音声 通話受付制御の研究	1,104
九州工業大学 IoTネットワークイノベーション実証研 究センター 准教授 廣瀬 幸	時空間点群情報に基づく逐次型伝搬推定技術 の研究開発	1,928
室蘭工業大学 大学院工学研究科 教授 近藤 敏志	イベントカメラを用いた夜間環境での野生動物検 出に関する研究	1,600
千葉大学 大学院工学研究院 助教 王 帆	ホログラフィ三次元表示に基づく動画像再生と動 的インタラクションの基盤技術	900

2025年度研究調査助成 技術分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
湘南工科大学 情報学部 教授 小林 淳史	暗号通信における非復号型トラフィック監視手法の研究	1,300
山口大学 創成科学研究科 教授 村田 英一	複数デバイスが連携して実現するUHF帯多重MIMO通信の実験評価	3,000
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 教授 鶴木 祐史	音質評価指標を利用した音の快・不快評価と聴知覚的サウンドデザイン	912
宮崎大学 工学教育研究部 教授 武居 周	マイクロ波メス使用時の手術室EMC評価に向けた大規模電磁界解析手法の研究	1,800
東京都立産業技術高等専門学校 ものづくり工学科 准教授 高田 拓	ピーマン圃場での一般物体検出と時系列画像処理による植物部位識別推定手法の開発	2,000
東京科学大学 工学院・情報通信系 助教 李 勝	量子回路による音声アシスタントAIのプライバシー保護強化	1,000
筑波大学 システム情報系 教授 Phung-Duc Tuan	AI時代の省エネ型データセンター性能の数理的説明	1,200
東北大学 未踏スケールデータアナリティクスセンター 助教 徳田 冬樹	生成モデルと模倣学習を融合した新たなロボット制御手法による柔軟物体操作の高精度化	3,000
広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授 小蔵 正輝	グループ単位の情報共有を活かしたスワームロボット制御基盤の構築	1,304

技術分野 44件 79,701千円

2025年度研究調査助成 学際研究分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
長野工業高等専門学校 工学科情報エレクトロニクス系 助教 萩原 隆義	バーチャルアバターを用いた自分自身の運動データとの身体融合における制御手法の開発	3,000
東京大学 次世代知能科学研究センター 准教授 大黒 達也	“こころ”の繋がりと健康を支援する“Internet of Hearts”の開発	1,840
室蘭工業大学 大学院工学研究科 教授 水上 雅人	管路壁伝搬マイクロ波通信による管路点検用移動ロボット群のワイヤレス通信制御	2,500
金沢工業大学 メディア情報学部心理情報デザイン学科 講師 川島 朋也	ゲーム型運転環境における注意制御の転移効果の検証：自動運転社会を志向して	1,700
福島県立医科大学 臨床研究イノベーションセンター 助教 山本 良平	医療情報基盤に潜むバイアスは医療AIの開発・検証にどう影響するか？	1,500
筑波大学 システム情報系 教授 伊藤 誠	コックピット計器配置最適化に向けたAIサロゲートモデルによるハイブリッド最適化	2,112
群馬大学 大学院理工学府知能機械創製理工学領域 博士後期課程2年 小林 潤也	大規模言語モデルとオノマトペを利用したTraining-Freeな歩容の元気度評価	738
城西国際大学 メディア学部 教授 大江 宏子	映像ナラティブによるDX型次世代伝承モデルの構築：地域資産としての銘仙に着目して	1,788

2025年度研究調査助成 学際研究分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
専修大学 ネットワーク情報学部・ネットワーク情報学科 助教 峯岸 朋弥	創作を用いたWSにおける生成AIによる思考固着の解明と抽象化提示による創造性拡張	2,000
法政大学 経済学部 准教授 Wang Qiao	英語スピーキング能力の向上を目的としたマルチエージェント議論システムの開発と検証	1,000
大阪大学 D3センター 講師 中村 拓人	ハンガー反射による視覚障害者の歩行誘導	3,000
東京農工大学 大学院 先端情報科学部門 教授 藤波 香織	身体装着慣性センサによる日常行動中のメンタルワークロード推定基盤	900
東京大学 大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任助教 石橋 真帆	津波避難を促進するための情報伝達に関する研究	3,000
筑波大学 人文社会系 教授 松島 みどり	ポジティブヘルス可視化ツールを用いた生きる力育成～少子高齢化社会での実践の具体化	2,618
和歌山大学 システム工学部 准教授 陳 金輝	個人適応型発話リハビリテーションの実現に向けた聴知覚モデルと発話モデルの統合	2,300
岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域 助教 大石 慶一郎	RAG技術を利用した不整合データ対応連合学習技術に関する研究	2,860

2025年度研究調査助成 学際研究分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
筑波大学 システム情報工学研究群 博士後期課程 安部 和真	大規模モバイルエッジコンピューティングのための 空間待ち行列モデルの解析	777
関西大学 大学院商学研究科 博士課程後期課程1年 井下 敬翔	皮肉生成・理解の双方向学習による語用論的推 論を強化した大規模言語モデルの構築	1,333
室蘭工業大学 大学院工学研究科 助教 寺岡 諒	マルチモーダル感覚情報に基づく共在感の知覚 メカニズムと提示手法に関する研究	2,970
名古屋商科大学 経営学部 経営情報学科 教授 蔡 東生	序破急と間のリズムを用いた文楽人形遣い Agentic AIの協調インタラクション	2,998
東京大学 情報基盤センターデータ科学研究部 門 助教 川瀬 純也	データを運んでくれる個体の選び方:野生動物 WSNとシミュレーション	1,100
筑波大学 システム情報系 / 学術情報メディアセ ンター 准教授 干川 尚人	超低遅延ネットワーク制御機能と心理実験に基 づく映像対話の遅延影響評価	1,766
九州大学 芸術工学研究院 メディアデザイン部 門 助教 亀岡 嵩幸	VRHMDに統合可能な熱・接触圧フィードバックを 用いた遠隔コミュニケーションの促進	2,992
東洋大学 情報連携学部・情報連携学科 助教 津村 賢宏	自動音声対応の非説明的要因による理解を促 進させるエージェント設計	2,000

2025年度研究調査助成 学際研究分野

申込者	研究調査テーマ名	助成金額 (千円)
東京都市大学大学院 総合理工学研究科情報専攻システム 情報領域 学生 代 美月	生成的・識別的表現学習の特徴量の階層的・幾何学的分析	700
慶應義塾大学 看護医療学部 准教授 宮川 祥子	マルチモーダルセンサでの計測と看護師のナラティブの統合で実現する看護ケアの可視化	2,000
東北大学 医学系研究科 放射線診断学分野 非常勤講師 臼崎 琢磨	自走式ブロックチェーンによる処方歴の病院間共有システムの社会実装	1,700
早稲田大学 人間科学学術院 助教 叢 瑞晨	生成AIと因果知識グラフを用いた社会的処方推薦システムの提案と検証	1,600
名古屋市立大学 芸術工学研究科 准教授 小鷹 研理	身体の錯覚における身体器官の「主観的部品化」に関する研究	1,000
横浜市立大学 医学部 産婦人科 助教 板井 俊幸	周産期災害医療の意識調査・実態調査と災害時安全確保システムの構築	1,500
筑波大学 人文社会系 国際公共政策学域長・教授 内藤 久裕	SAR衛星と深層学習を用いたインフラ・交通量・経済活動の把握と国際比較	2,750
香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携 推進機構 特命講師 久保 栞	ドローン点群データを活用した建物被災度分類の基礎的検討	1,700

学際研究分野 32件 61,742千円

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
人文学・社会科学分野	2024年度	大妻女子大学（早稲田大学に2026年4月異動予定） 社会情報学部社会生活情報学専攻 専任講師 佐藤 信吾	ソーシャルメディアと構成的外部の相互性に関する一考察	1,100
人文学・社会科学分野	2024年度	兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹内 和雄	インターネット上の偽・誤情報対策	1,000
人文学・社会科学分野	2024年度	駿河台大学 心理学部 教授 和智 妙子	捜査面接をオンラインで実施することは可能か？	665
人文学・社会科学分野	2024年度	滋賀大学 データサイエンスAIイノベーション研究推進センター 講師 近藤 紀章	気象データと交通選好の統合によるスマートライドシェアシステムの構築	950
人文学・社会科学分野	2024年度	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授 岡田 仁志	中央銀行デジタル通貨の設計思想にみる次世代通貨体制の集権性と分権性	800
人文学・社会科学分野	2024年度	山口大学 教育・学生支援機構 教学マネジメント室 講師 岩野 摩耶	大規模言語モデルによる感性分析を用いた教育成果の測定に関する研究	830
人文学・社会科学分野	2024年度	立命館大学 法学部 准教授 畑中 麻子	日欧デジタルパートナーシップにおける知的財産法制度の挑戦	670

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
人文学・社会科学分野	2024年度	北海道科学大学 保健医療学部診療放射線学科 准教授 谷川原 綾子	大規模言語モデルの生成・活用に向けた放射線医療特化型日本語データセットの生成	1,200
人文学・社会科学分野	2024年度	早稲田大学 アジア太平洋研究科 准教授 瀬田 真	危機の時代における海底ケーブルガバナンス：国際法の視点から	1,760
人文学・社会科学分野	2024年度	大妻女子大学 文学部・コミュニケーション文化学科 准教授 李 美淑	デジタル時代におけるジャーナリズム文化の変容に関する国際比較研究	1,400
人文学・社会科学分野	2024年度	東北福祉大学 教育学部教育学科 准教授 上村 裕樹	保育の質向上のための安全管理と業務効率化に向けたAIの活用	1,000
人文学・社会科学分野	2024年度	滋賀大学 データサイエンス研究科 博士後期課程1年 林 孝太郎	仮想現実世界における社会的ネットワークの形成と主観的ウェルビーイングへの影響	300
人文学・社会科学分野	2024年度	東北大学 大学院情報科学研究科 特任助教（研究） 李 昶翮	AI文字おこしは地方議会コーパス構築にとって有益か？：町村議会に対する実証分析	505
人文学・社会科学分野	2024年度	佛教大学 社会学部公共政策学科 准教授 三重野 雄太郎	電子計算機使用詐欺罪をめぐる総合的研究	660

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
人文学・社会科学分野	2024年度	立命館大学 産業社会学部 准教授 世雄 呉	ソーシャルワーク実践におけるデジタル化の影響と新たな実践論の構築に関する研究	700
人文学・社会科学分野	2024年度	名古屋大学 大学院法学研究科／高等研究院 教授 林 秀弥	情報空間の秩序形成に向けたデジタル社会の再構築	825
人文学・社会科学分野	2024年度	青森県立保健大学 社会学部二部社会学科 助教 松崎 良美	障害児の意志に寄り添う情報通信“活用”—学びを支える現場から問うリテラシー—	655
技術分野	2024年度	東京大学 大学院情報学環 特任講師 葛 杭麗	Overloaded MIMO環境におけるDeep Unfolding(深層展開)手法を用いた信号検出の最適化	600
技術分野	2024年度	東北学院大学 工学部情報基盤工学科 准教授 深瀬 道晴	次世代情報通信における暗号セキュリティ解析ツール的高速並列化に関する調査研究	165
技術分野	2024年度	埼玉大学 工学部情報工学科 教授 小室 孝	生成AIによる現実空間と仮想空間の自然な融合	888
技術分野	2024年度	長崎大学 大学院・総合生産科学研究科(工学系) 助教 GUAN CHAI EU	Beyond 5G/6Gネットワークと非地上系通信を連携するRIS反射板の設計と実現	443

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
技術分野	2024年度	苫小牧工業高等専門学校 創造工学科（情報科学・工 学系） 准教授 杉本 大志	AIと群ロボットを用い た災害時の動的探索・ 救助プロトコルの開発	600
技術分野	2024年度	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 情報学専攻 教授 清 雄一	大規模言語モデルの悪 用に対する防御機構の 開発	3,000
技術分野	2024年度	埼玉大学 理工学研究科 情報工学プロ グラム 准教授 菅野 円隆	時間遅延光システムを 用いた物理深層学習に よる敵対的生成ネット ワークの実装	1,000
技術分野	2024年度	岡山県立大学 情報工学部・情報通信工学 科 教授 滝本 裕則	マルチモーダル基盤モ デルに基づく言葉によ る審美性評価の高度 化・暗黙知の表出化	400
技術分野	2024年度	北海道大学 電子科学研究所 准教授 渋川 敦史	次世代光通信に向けた 超高速3Dビームステア リング技術の開発	3,000
技術分野	2024年度	会津大学 コンピュータ理工学科 准教授 LE DOAN HOANG	AI活用による光/RF混在 型非地上系ネットワー ク	1,800

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
技術分野	2024年度	早稲田大学 理工学術院 基幹理工学 部・電子物理システム学科 教授 史 又華	信頼できるAIハード ウェア設計基盤技術	1,000
技術分野	2024年度	鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科 教授 井手 輝二	コグニティブ無線適用 の電波環境マップ作成 を深層学習により高精 度で行う研究	594
技術分野	2024年度	千葉工業大学 先進工学部 知能メディア 工学科 教授 宮田 高道	ビジョン言語モデルを 用いた画像復元とゼロ ショット画像認識の交 互最適化	1,500
技術分野	2024年度	鹿児島大学 大学院理工学研究科工学専 攻 電気電子工学プログ ラム 助教 Du Xin	電波遮蔽を考慮した機 能性反射板の設計に関 する研究	725
技術分野	2024年度	埼玉大学 理工学研究科 教授 岩崎 慶	デジタルツイン向け3D アセットの高精細レン ダリング技術の開発	1,210
技術分野	2024年度	室蘭工業大学 システム理化学科 准教授 李 鶴	IoTにおけるマルチモー ダル大規模言語モデル 向け軽量エッジ処理シ ステムの研究開発	600
技術分野	2024年度	中央大学 国際情報学部 教授 松崎 和賢	クラウド制御に対応す るレガシーシステムの セキュリティ検査手法 の開発	930

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
技術分野	2024年度	東京科学大学 情報理工学院 助教 常 穹	エッジデバイスを用いたリアルタイム3D空間の再構成	600
技術分野	2024年度	広島大学 半導体産業技術研究所 特任助教 XIA SIJIE	6Gシステム実現に向けた高速移動環境における高信頼・低遅延通信の研究開発	900
技術分野	2024年度	岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域 教授 田野 哲	送受信アンテナ数以上の空間多重を行う過負荷MIMOシステムの研究	990
技術分野	2024年度	横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 孫 鶴鳴	FPGAを用いたトランスフォーマーの最適ハードウェア実装	100
技術分野	2024年度	東京大学大学院 情報理工学系研究科システム情報学専攻 助教 山岡 洸瑛	音響センサネットワーク上の信号処理性能評価のための同期非同期ペアデータセット構築	1,300
両分野に跨る	2024年度	東京都立大学 システムデザイン学部・情報科学科 教授 会田 雅樹	ダークウェブ等の秘匿されたユーザの活動の動向把握と防犯・安全保障技術への社会応用	1,000
両分野に跨る	2024年度	愛知学院大学 経営学部 准教授 油井 毅	動的データと機械学習が明らかにするアイデアの高評価に寄与する要因	449

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
両分野に 跨る	2024年度	北見工業大学 工学部・情報通信系 准教授 プタシンスキ ミハウエドム ンド	インターネット選挙に おけるSNS上誤情報対策 用のAI基盤の応用可能 性に関する調査	500
両分野に 跨る	2024年度	茨城大学 応用理工学野 助教 福村 真紀子	「サードプレイス」を 形成する雑談AIの可能 性：情報学と日本語教 育学の視点から	1,383
両分野に 跨る	2024年度	静岡大学 工学部 准教授 一ノ瀬 元喜	AIエージェントと人の 融合環境における協力的 意思決定プロセスの 探究	1,020
両分野に 跨る	2024年度	東京大学 情報学環 助教 Yang Chi-Lan	有意義な人間とAIのコ ミュニケーションを支 える弱点を持つAIの設 計と調査 (Investigating and Designing a Vulnerable AI for Supporting Meaningful Human-AI Communication)	2,740
両分野に 跨る	2024年度	崇城大学 情報学部 特任助教 耿 学旺	XRを活用したシミュ レーションにおける感 情行動センシング技術 の開発	1,250
両分野に 跨る	2024年度	北海道大学大学院 情報科学院情報科学専攻情 報理工学コース 博士課程1年 鈴木 湧登	比喩表現の可視化を通 じた運動技術の学習支 援手法に関する研究	1,200

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
両分野に 跨る	2024年度	北里大学メディカルセン ター 救急科 副部長 田村 智	非接触型バイタルサイ ン測定技術とVR/AR技術 の融合による救急映像 伝送システムの開発	1,000
両分野に 跨る	2024年度	東京大学大学院 学際情報学府学際情報学専 攻 博士1年 西田 直人	異言語間の対話におけ る認知負荷を軽減する 翻訳字幕提示技術の開 発	500
両分野に 跨る	2024年度	岩手大学 人文社会科学部 准教授 立花 良	XR通信コミュニケー ションにおける感情認 知行動の定量化	1,000
両分野に 跨る	2024年度	国際基督教大学 教養学部アーツサイエンス 学科 教授 石橋 圭介	社会ジレンマを緩和す る情報通信・実社会イン フラリソース最適化 制御の研究	1,165
両分野に 跨る	2024年度	東北大学 大学院国際文化研究科 准教授 佐藤 正弘	生成エージェントによ るAI駆動型イノベー ション手法の開発	799
両分野に 跨る	2024年度	明治大学 情報コミュニケーション学 部 専任准教授 後藤 晶	AIと人間の信頼のダイ ナミクス：ゲーム実験 を用いた信頼創造・毀 損・回復過程の検討	1,749
両分野に 跨る	2024年度	福井工業大学 経営情報学部・経営情報学 科 准教授 加藤 千枝	神経発達症の青少年の インターネット利用特 性—エピソード感情認 識による分析—	100

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
両分野に 跨る	2024年度	愛媛大学 教育学部 教授 大西 義浩	AI 生成子どもモデルを 用いた模擬授業シミュ レーターの開発と教員 養成への応用	1,200
両分野に 跨る	2024年度	沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工学科 講師 宮城 桂	音響刺激が土壌微生物 に与える影響の解明と その実用化	643
両分野に 跨る	2024年度	九州大学 大学院芸術工学研究院 助教 Loh Ping Yeap	IMUデータと機械学習を 用いた歩行・行動解析 手法の提案と検証	770
人文学・ 社会科学 分野	2023年度	東北大学 産学連携機構（兼）法学研 究科 特任教授（研究） 戸次 一夫	曖昧に特定された発明 に関する特許要件の在 り方についての調査研 究	1,000
人文学・ 社会科学 分野	2023年度	北海道大学 大学院情報科学院 大学院生（博士後期課程） 春日 遥	日欧比較を通じた、伴 侶動物の分離不安を軽 減する社会的ロボットの 検討	900
技術分野	2023年度	早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 教授 伍 軍	分散型注意のネット ワーク向け知識グラフ の全プロセスのきめ細 かいプライバシー保護	894
技術分野	2023年度	九州工業大学 大学院工学研究院電気電子 工学研究系 教授 河野 英昭	映像IoTカメラの省電力 運用のためのニューラ ルコーデックの開発	1,000
技術分野	2023年度	岡山大学 学術研究院 環境生命自然 科学学域 准教授 侯 亜飛	伝搬路を再構成可能な 反射板を用いた複数異 なる伝搬路形成による 無線端末測位技術の研 究	1,000

分野	採択年度	申込者	研究テーマ	助成額
両分野に 跨る	2023年度	大阪大学大学院情報科学研究科 情報ネットワーク学専攻 博士後期課程2年 山口 隼平	協調作業の定性・定量 分析を統合するIoTシス テムの研究	1,370
両分野に 跨る	2023年度	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 教授 細川 敬祐	市民参加型ネットワー ク観測による短波通信 環境のモニタリング	640
両分野に 跨る	2023年度	帝京大学 理工学部情報電子工学科 講師 塩野目 剛亮	ゲーミフィケーション を用いたろう・難聴者 向け字幕提示特性の最 適化に関する研究	937

2025年度 助成 65件 63,574千円

2025年11月期 シンポジウム・セミナー等開催援助(学術分野)

申込団体名・申込者	会議、シンポジウム・セミナー等名	援助金額 (千円)
国際通信学会第25回世界大会実行委員会 実行委員長 鈴木 茂樹	国際通信学会第25回世界大会	1,000
SCIS2026 教授 久保田直行	第14回ソフトコンピューティングと知能システム, 第27回先端知能システム共同国際会議(Joint 14th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 27th International Symposium on Advanced Intelligent Systems (SCIS&ISIS 2026))	1,000
WIFS2026実行委員会 実行委員長 栗林稔	IEEE Workshop on Information Forensics and Security (WIFS2026)	1,000
窒化物半導体国際ワークショップ2026 組織委員会 教授 三宅秀人	International Workshop on Nitride Semiconductors 2026	1,000
IEEE iWEM2026実行委員会 実行委員長 有馬卓司	IEEE電磁界に関する国際ワークショップ(応用とイノベーションコンペ)(iWEM2026)	500
2026年電磁界理論の先進的応用に関する国際会議及びIEEE-APS無線通信におけるアンテナ・伝搬に関する会議実行委員会 委員長 小林一哉	2026年電磁界理論の先進的応用に関する国際会議及びIEEE-APS無線通信におけるアンテナ・伝搬に関する会議	1,000
FG2026組織委員会 組織委員長 村松大吾	20th IEEE International Conference on Automatic Face and Gesture Recognition (FG2026)	1,000
MobiQuitous2026組織委員会 組織委員長 山口弘純	23rd International Conference on Mobile and Ubiquitous Systems: Computing, Networking and Services (MobiQuitous2026)	1,000
情報理論とその応用国際シンポジウム実行委員会 実行委員長 森井昌克	2026年情報理論とその応用国際シンポジウム(ISITA2026)	1,000

9件 8,500千円

2025年11月期 シンポジウム・セミナー等開催援助(社会貢献分野)

申込団体名・申込者	会議、シンポジウム・セミナー等名	援助金額 (千円)
特定非営利活動法人報道実務家 フォーラム 理事長 瀬川至朗	報道実務家フォーラム2026	700
福井工業大学経営情報学部経営 情報学科 准教授 加藤千枝	『疲れを感じられない社会』の危うさ — Zero Fatigueとインターネット依存	500
まちのきょういく委員会 CLC 西森寛	生成AIが切り拓く超高齢社会の可能性～AIカタリス トの共創モデル～	480

3件 1,680千円